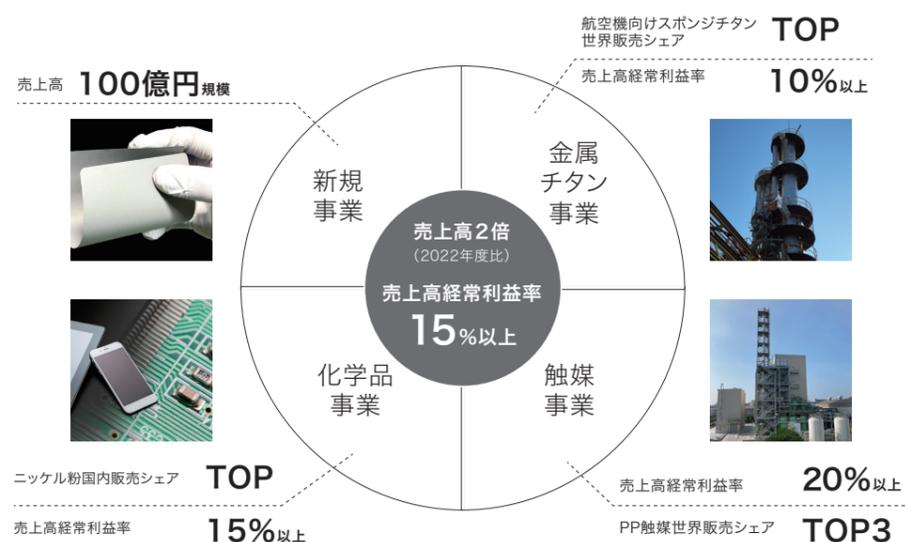


# 2030年ありたい姿と 中期経営計画の位置付け

## 2030年ありたい姿(BE2030)

「先進素材と技術を創出し、  
環境変化への柔軟性を持つ高収益企業となり、  
高度循環型社会の発展に貢献する」

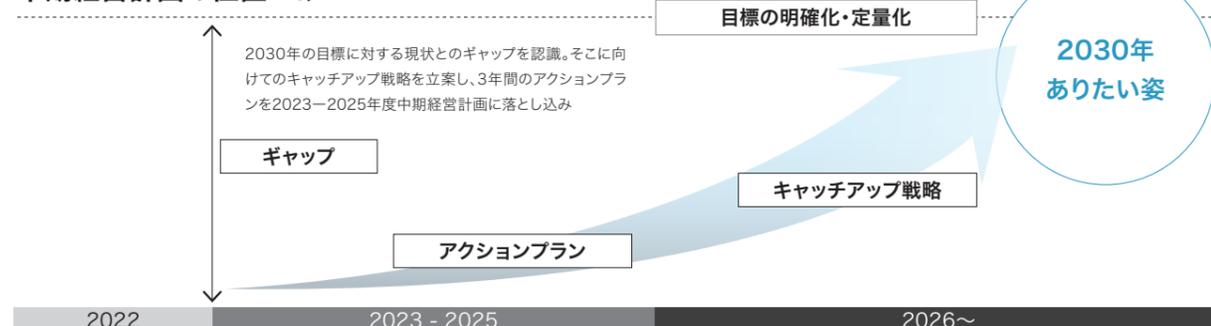
### 事業別ありたい姿



### 2030年度目標値

	2030年度
売上高	1,700億円
経常利益	250億円
ROE	10%以上
ROIC	10%以上
D/E レシオ	1.0倍未満

### 中期経営計画の位置づけ



## 2023-2025年度 中期経営計画の進捗

金属チタン事業	
キャッチアップ戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポンジチタン価格水準の適正化</li> <li>チタンインゴット増産による加工マージン増収</li> <li>スポンジチタン(若松/茅ヶ崎工場)設備の一部改良による能力増強</li> <li>採算性確保が可能な新工場建設検討</li> <li>労働生産性30%改善</li> </ul>
23 - 25 主要施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>コスト変動に連動した価格フォーミュラー化</li> <li>若松/茅ヶ崎工場のスポンジチタン生産能力増強(3kt/年)</li> <li>サウジスポンジ工場(ATTM社)フル操業</li> <li>チタンインゴット生産効率向上</li> </ul>

### 2023年度の進捗

- 中計に掲げる諸施策については、概ね計画どおりに進捗
- スポンジチタンではフル生産が続いているものの、チタンインゴットについては中国景気の鈍化を受けて、やや厳しさが増しており、こうした環境変化への対応が今後の課題

触媒事業	
キャッチアップ戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒部・茅ヶ崎工場の生産技術改善(現状生産能力に対して約40%アップ)</li> <li>新工場建設による生産能力増強(現状生産能力に対して約30%アップ)</li> <li>触媒高性能化による攻めの市場開拓</li> <li>労働生産性30%改善</li> </ul>
23 - 25 主要施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産技術改善等による生産能力増強(現状生産能力に対して約6%アップ)</li> <li>新工場建設による能力増強計画策定</li> </ul>

### 2023年度の進捗

- 中計策定時からは、事業環境が大きく変化したことで、売上高、経常利益ともに、最終年度の目標達成の見通しは厳しい状況
- 中計期間中は、2026年以降のマーケット回復を見据えて、確実に布石を打つ

化学品事業	
キャッチアップ戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>第5工場稼働による生産能力増強(総完成時には現状生産能力に対して約40%アップ)</li> <li>次期増強投資の具体化(現状生産能力に対して約30%アップ)</li> <li>労働生産性30%改善</li> </ul>
23 - 25 主要施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>第5工場稼働(25年度予定)による生産能力増強(現状生産能力に対して約20%アップ)</li> </ul>

### 2023年度の進捗

- 大幅な成長を前提とした中計目標の達成は、非常に厳しい環境にある
- まずは2025年度において確実に収益を回復させること、これにより2026年度は当初想定した成長軌道に戻すことが課題

新素材事業	
キャッチアップ戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEBTIの事業拡大</li> <li>新規事業の創出</li> </ul>
23 - 25 主要施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>新素材事業部で(WEBTI)の事業化</li> <li>事業拡大に応じた生産能力増強</li> <li>技術戦略部と技術開発センターで新規事業テーマを企画・開発</li> </ul>

### 2023年度の進捗

- チタン多孔質体(WEBTI)について、引き続き事業化に向けた対応を進める(生産能力の整備と顧客基盤の拡大に向けた取り組み)
- 現在並行して進めているその他の新規事業案件についての事業化検討